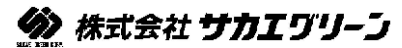


お客様各位



マツ材線虫病の簡易診断法


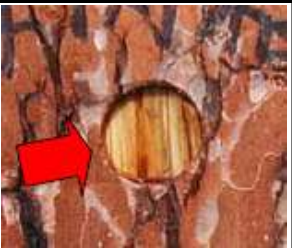


マツ材線虫病の診断法のひとつに、ポンチ等で樹皮に穴を開け樹脂の流出を確認する方法があります（小田の方法）。この方法は樹脂の流出が少ない冬季には適さないものですが、秋～冬でも実施できる「マツ枯死木の探索法」をご紹介します（宮城県林業技術総合センター）。

小田の方法は枯損危険木を判定するもので、本法は「年越し枯れ木」の早期駆除を目的に枯死木を判定するものとして開発されました。

調査円内で皮ポンチを使用したマツ枯死木の探索法(通称:皮ポンチ法)－暫定版－

出来るだけ地際付近の幹に皮ポンチ(径2cm程度)を用いて穴を開けます。穴は木部まで打ち込みます(外樹皮は硬く、内樹皮に入ると柔らかくなり、更に硬くなったところが木部)。皮ポンチの先で樹皮をめくり、木部の状態を観察します。感染木では緑葉を保持していても褐色の縦筋が認められるようです(下表)。

健全木であれば穴は2～3年で巻き込まれ目立たなくなります。なお、本法を適用できるマツ林は、林分として一定の広がりがあり、かつ、主たる感染源が林内にあるマツ林とされています。

健全木	年内枯れ木	年越し枯れ木	
			
木部は白い	ほぼ褐色に変化	褐色の縦筋が見られる	
	感染翌年の2月時点 (葉が褐色変)	感染翌年の2月時点 (緑葉を保持)	感染当年の10月時点 (緑葉を保持)

富山県でも材線虫病による年越し枯れが確認されており、参考となる部分があるものと思われます。とは言え、感染してしまったマツには、治療効果はほとんど見込めないのが現状です。大切なマツを守るため、樹幹注入剤等による早めの予防的防除をお奨めいたします。

【参考資料】樹脂の出方による診断（小田の方法）や葉の枯れ方についても解説してあります。

- ◆財団法人日本緑化センター「マツ再生プロジェクト」
- ◆同財団HP http://www.jpgreen.or.jp/kyoukyu_jyouhou/gi_jyutsu/matsu_byou/index3.html#oda
- ◆宮城県林業技術総合センターHP <http://www.pref.miyagi.jp/stsc/hogo/kawaponti/ponti.pdf>

◆商品案内◆



グリーンガード・NEO（酒石酸モランテル剤）90ml/本

- 高い防除効果の「グリーンガード」シリーズは、松枯れ予防剤の中でもトップシェアを誇っています。
- 樹体に直接注入するので、ドリフトなどの心配がありません。
- 一度施工すると予防効果は7年間持続します。
- 従来品「グリーンガード」「グリーンガード・エイト」よりもコンパクトで、また寒冷地でも問題なく施工でき、薬効の持続期間も長くなりました。

メーカー希望価格：2,600円/本